

竜が台中学校区における学校規模適正化(小規模校対策)

第2回保護者説明会

神戸市教育委員会事務局 学校環境整備課



○本日の予定

1. 第1回保護者説明会の内容
2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計
3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案
4. スケジュール
5. 意見交換
6. 最後に



【児童生徒数はピーク時の約半数に】

(1) 小学校

ピーク時:約13万人(昭和56年度)

令和6年度:約7万人

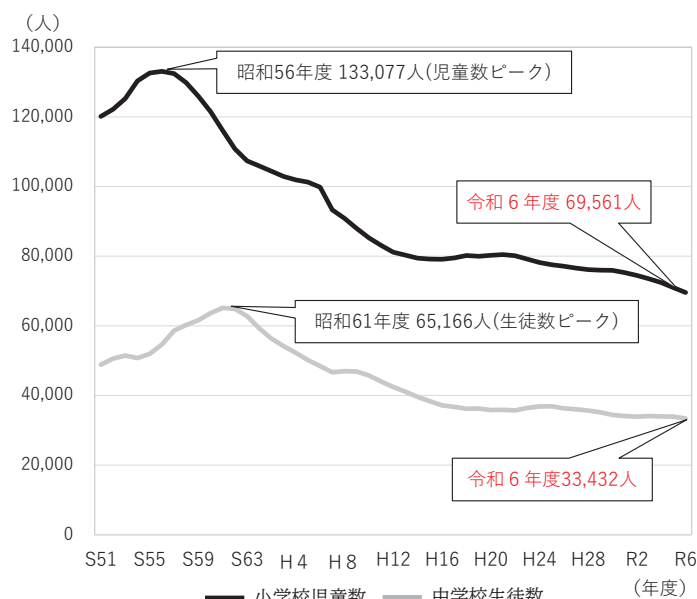
(2) 中学校

ピーク時:約6万5千人
(昭和61年度)

令和6年度:約3万3千人



さらに減少傾向に…



【小規模な学校が年々増加】

小学校	昭和56年度 (161校)	令和6年度 (163校)	中学校	昭和61年度 (76校)	令和6年度 (82校)
小規模校	19校 (約11.8%)	55校 (約33.7%)	小規模校	5校 (約6.6%)	19校 (約23.2%)
大規模校	51校 (約31.7%)	18校 (約11.0%)	大規模校	43校 (約56.6%)	8校 (約9.8%)



【神戸市が考える望ましい学校規模】

	小規模校	適正規模校	大規模校
小学校	11学級以下	12～24学級	25学級以上
中学校	8学級以下	9～18学級	19学級以上



【小規模校の主な課題】

- ・ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨せっさたくまする機会が少なくなりやすい。
- ・ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。
- ・ 児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習など、多様な学習・指導形態を取りにくい。
- ・ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
- ・ 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。

文部科学省「公立小学校・中学校の規模適正・適正配置等に関する手引き」および中央教育審議会初等中等教育分科会「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会」（第8回）配布資料を参考



【取り組みの必要性】

小・中学校

知識や技能の取得

思考力、判断力、問題を
解決する能力

社会性や規範意識を育む

集団の中で、

- ・ 多様な考えに触れる
- ・ 認め合う
- ・ 協力し合う
- ・ 切磋琢磨する

子供たちにとってより良い教育環境を実現する

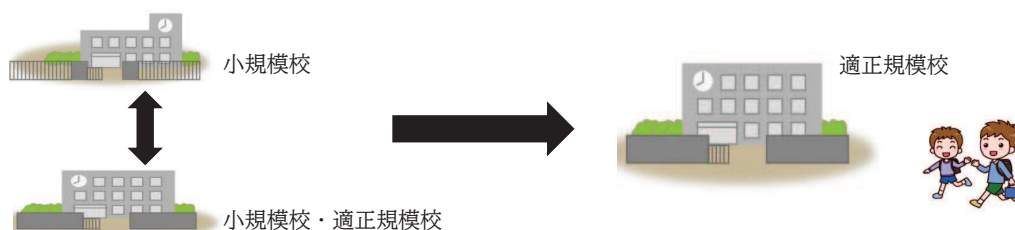


【具体的な取り組み(小規模校対策)】

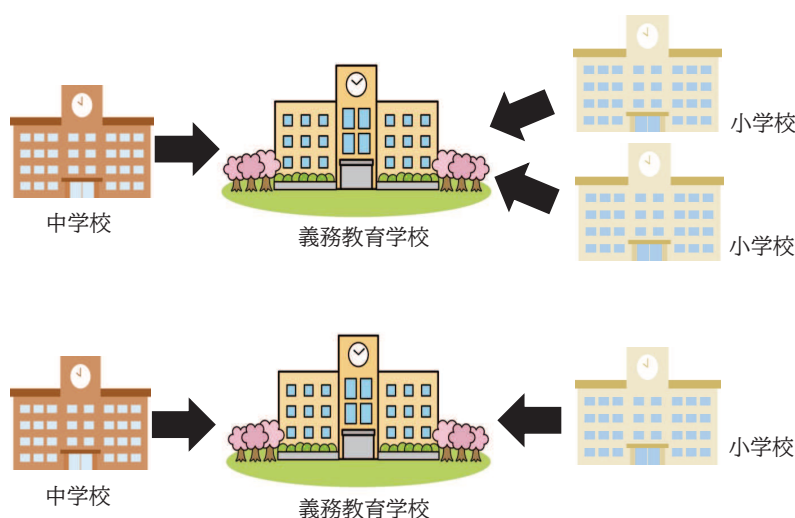
① 校区変更等



② 学校統合



③ 義務教育学校への移行



小中一貫した
9年間の教育課程



【学校が適正規模になることで期待される効果】

- ・ 良い意味での競い合いが生まれる、向上心が高まる。
- ・ 以前よりもたくましくなる、教師に対する依存心が減る。
- ・ 社会性やコミュニケーション能力が高まる。
- ・ 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上する。
- ・ 友人が増える、男女比の偏りが少なくなる。
- ・ 多様な意見に触れる機会が増える。
- ・ 異学年交流が増える、集団遊びが成立するようになる、休憩時間や放課後での外遊びが増える。
- ・ 学校が楽しいと答える子が増える。
- ・ 進学に伴うギャップが緩和される。
- ・ 多様な進路が意識されるようになる。

文部科学省「公立小学校・中学校の規模適正・適正配置等に関する手引き」を参考



【取り組みを進めるにあたって】

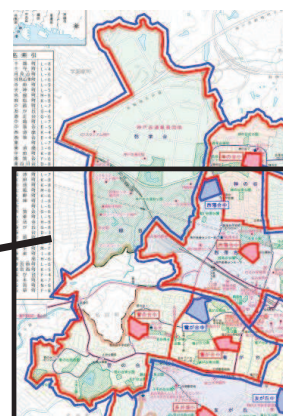
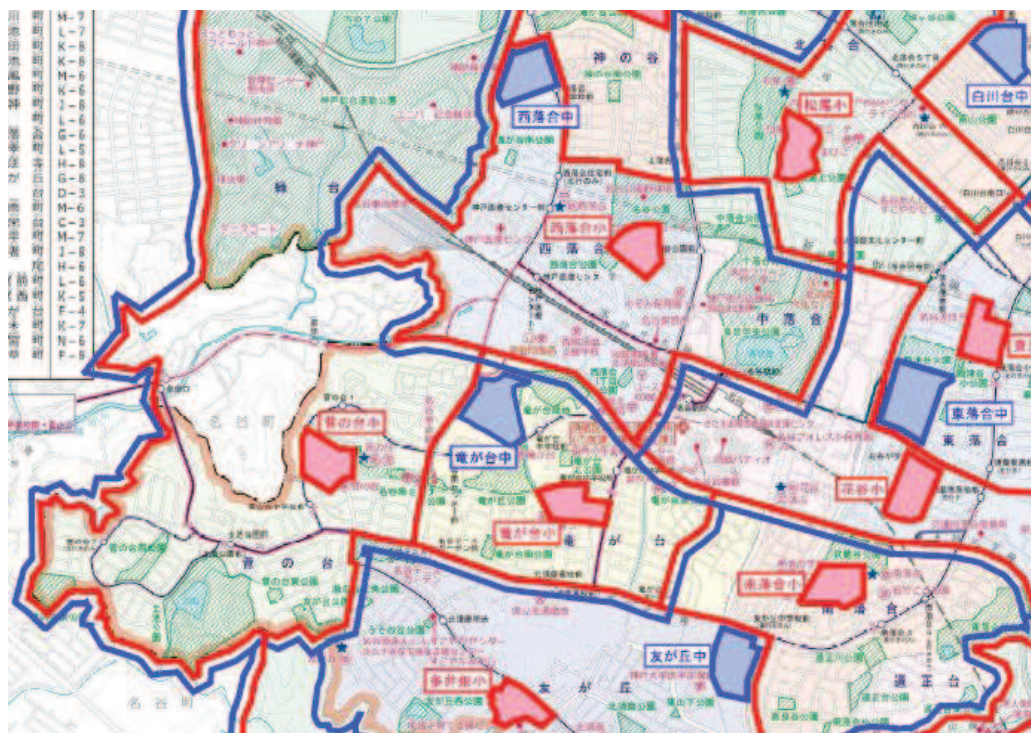
子供・保護者 ←→ 学校 ←→ 地域
(教職員)

○神戸市教育委員会のHPにも掲載されています。

・URL

<https://www.city.kobe.lg.jp/all243/kosodate/gakko/school/shokiboko-tekisekibo.html>

・二次元コード



竜が台中学校区 校区周辺図
 小学校区
 中学校区



		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
竜が台小	児童数	143	150	160	180	190	200	210
	学級数	6	6	6	6	6	7	8
菅の台小	児童数	209	200	200	200	200	190	190
	学級数	8	8	8	8	8	7	7
竜が台中	生徒数	183	190	190	170	160	170	170
	学級数	6	6	6	6	6	6	6

※令和6年5月1日時点(特別支援学級数は含まず)、赤字は小規模を示す



○小規模校の良さと課題(一例)

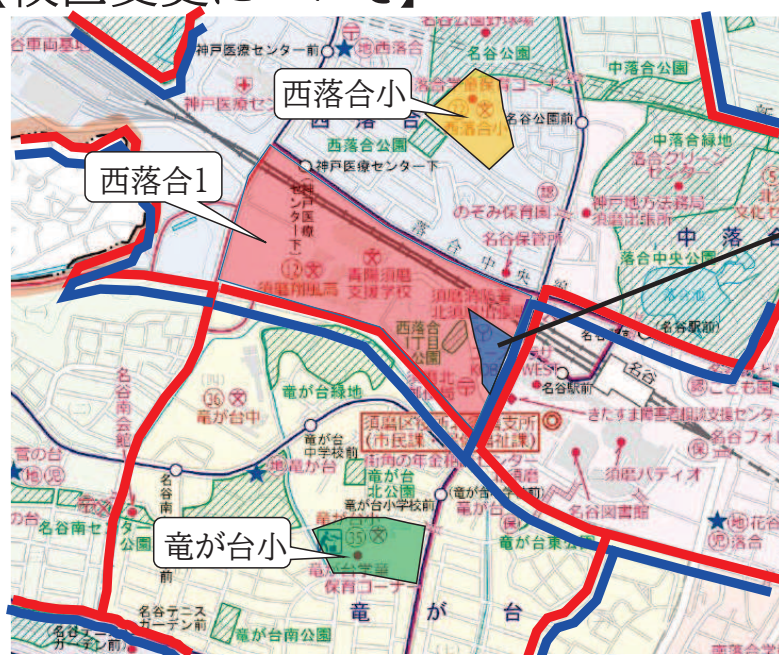
良さ	課題
・校外学習を行いやすい。 ・お互いのことを認め合っている。 ・男女の隔てがない。 ・教職員が子供たち一人一人のことを共通理解して接することができる。 ・施設面で、急な時間割変更等にも対応しやすい。	・行事の際の活気が少ない。 ・多様な学習形態を行いにくい。 ・クラス替えができない。 ・一度人間関係が崩れると学校生活が厳しくなる。 ・人間関係の固定化が生じてくる。 ・教職員への依存度が高まる。 ・社会性が身につけにくい。 ・教職員の負担が大きい。 ・急な対応が必要となった際に手が足りない。 ・単学級の中に転入しにくい。



○学校運営協議会における話し合いの内容

竜が台中学校	竜が台小学校	菅の台小学校
①生徒数・学級数の推計	①児童数・学級数の推計	①児童数・学級数の推計
②学校教育環境の向上及び学校規模適正化に関する基本方針	②学校教育環境の向上及び学校規模適正化に関する基本方針	②学校教育環境の向上及び学校規模適正化に関する基本方針
③小規模校の課題と取り組みの内容	③小規模校の課題と取り組みの内容	③小規模校の課題と取り組みの内容
④小規模校の良さと課題(一例)	④小規模校の良さと課題(一例)	④小規模校の良さと課題(一例)
⑤小中一貫教育 (制度・良さと課題・ 求められる背景)	⑤校区変更	⑤小中一貫教育 (制度・良さと課題・ 求められる背景)
⑥義務教育学校について	⑥小中一貫教育 (制度・良さと課題・ 求められる背景)	⑥義務教育学校について

【校区変更について】



概要

- 名谷駅前再開発に伴うマンション建築
- ・建築地:西落合1丁目
- ・校区:西落合小学校
- ・戸数:318戸
- ・入居予定:2026年(令和8年)3月
- ※西落合1丁目には、434戸のマンションが別にあります。

- 小学校区
- 中学校区

【これまでの学校運営協議会で

委員からいただいた主なご意見】

- ・ 今後、周辺校も含めて児童数や学級数が減っていくことから、校区変更は難しいということが分かった。
- ・ 周辺校でも少子化が進んでいるということと、中学校区が広いということから考えると校区変更や中学校同士の統合は難しいと思う。
- ・ 小学校が1学年1学級であることから、すでに強固にでき上がっている人間関係の中に入っていくことに不安を感じ引っ越しをためらっていると聞いたことがある。
- ・ 保護者にとって、クラスが1つだけなのかどうかということは非常に気になる。1クラスだけだと、何かあったときの逃げ場がない。



- ・ 小学1年生の子供を竜が台小学校まで通学させることには、通学距離が増えるので不安を感じる（特に名谷町）。
- ・ 竜が台小学校と菅の台小学校は共に学校の規模が小さいので、以前から統合されるのではないかという噂があった。中学校も小規模であることを考慮すると中学校は両小学校の真ん中にあるので立地的には義務教育学校への移行が可能ではないか。
- ・ 中学校も含めた義務教育学校について、イメージが湧かない。メリットとデメリットなどを教えてほしい。
- ・ 義務教育学校へ移行しても、中学校の生徒数は変わらない。どのような効果があるのか。
- ・ 社会性の形成にはある程度の人数と年齢の幅が必要だと思うので、竜が台中学校で小中学生と一緒に学ぶことに意義があると思う。

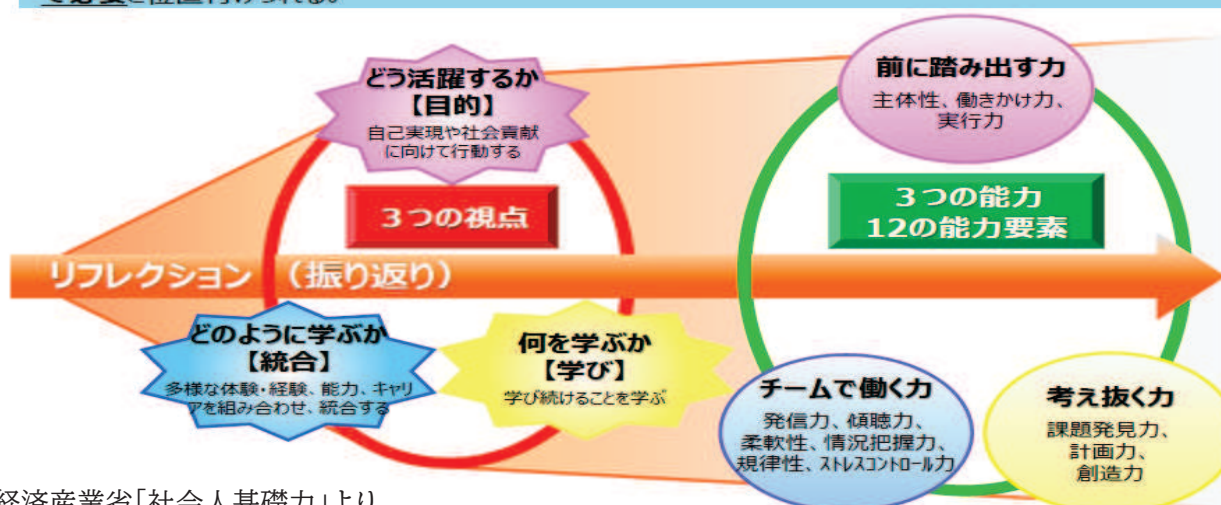


- ・ 9年間同じ場所で過ごすのであれば、子供たちが節目節目で切り替えができるような教育の仕組みを考える必要がある。
- ・ 義務教育学校を目指すメリットはデメリットよりも大きいと感じる。
- ・ 義務教育学校へ移行するとすれば、どれくらいの期間がかかるのか。
- ・ 竜が台中学校区3校で足並みを揃えて検討を進めていくことが必要。
- ・ 様々な課題はあるものの、将来を生きていく子供たちにとってより良い教育環境となるように、何かしらの取り組みを行わなければならない。
- ・ 保護者（特に未就学児や低学年）や地域の意見を十分に聞いてほしい。
- ・ 児童数や学級数だけでなく避難所や投票所など、まちづくりの観点からも考えてほしい。



「人生100年時代の社会人基礎力」とは

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



経済産業省「社会人基礎力」より



学習指導要領の改訂

小学校：2020年度（令和2年度）、中学校：2021年度（令和3年度）

・学校での学びを通じ、子供たちが「生きる力」を育む



予測困難な時代

- ・グローバル化
- ・人工知能、AIなどの技術革新



子供たちに求められる力

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力



【保護者から頂戴した主なご意見と教育委員会からの回答】

別紙、資料をご参照ください。



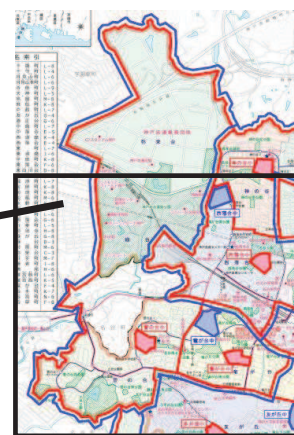
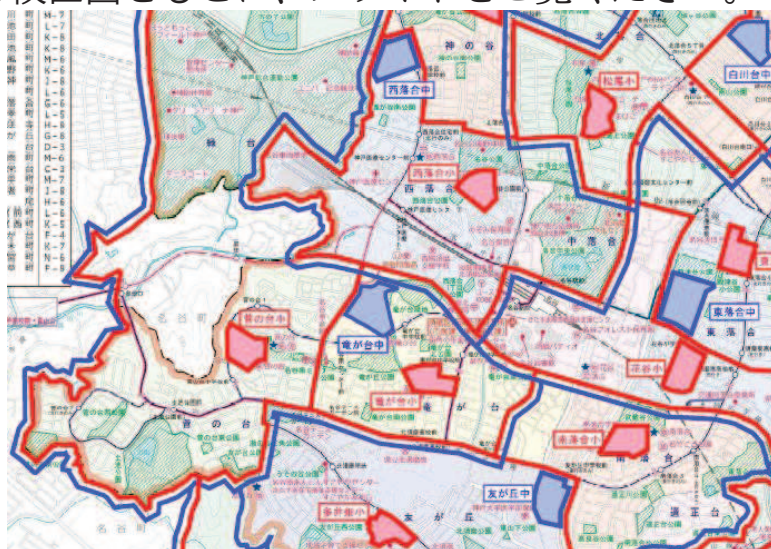
○本日の予定

1. 第1回保護者説明会の内容
2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計
3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案
4. スケジュール
5. 意見交換
6. 最後に



2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計

○校区図をもとに、スライドをご覧ください。



竜が台中学校区 校区周辺図
 — 小学校区
 — 中学校区



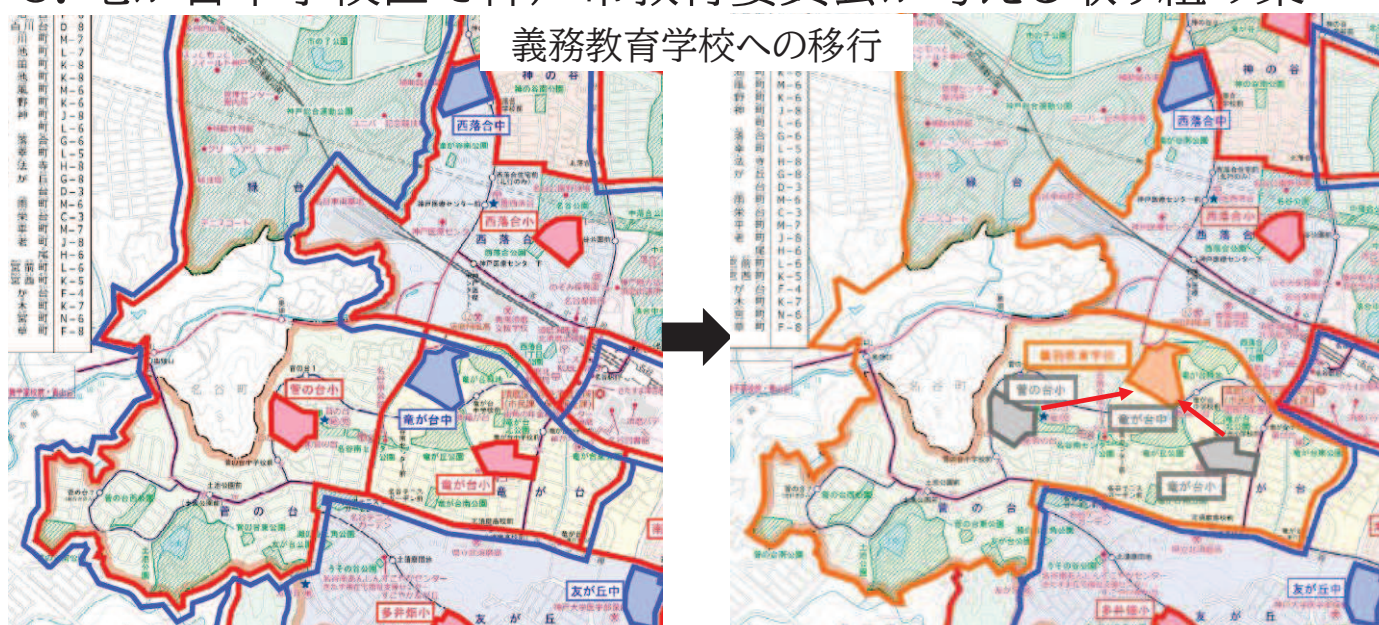
○本日の予定

1. 第1回保護者説明会の内容
2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計
3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案
4. スケジュール
5. 意見交換
6. 最後に



3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案

義務教育学校への移行



○義務教育学校へ移行した場合の児童生徒数と学級数の推計

		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
前期課程 (小1～小6)	児童数	352	350	360	380	390	390	400
	学級数	12	12	12	13	13	14	14
後期課程 (中1～中3)	生徒数	183	190	190	170	160	170	170
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
合計	児童生徒数	535	540	550	550	550	560	570
	学級数	18	18	18	19	19	20	20

※令和6年5月1日時点(特別支援学級数は含まず)、赤字は小規模を示す



○小中一貫教育・義務教育学校について

(1)小中一貫教育とは

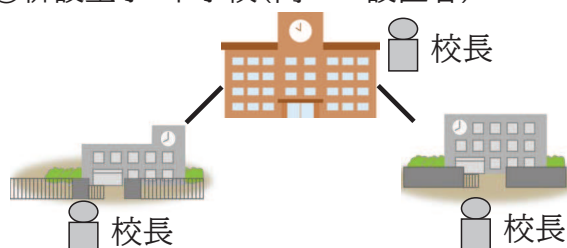
○小中連携教育:小・中学校段階の教員が情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

○小中一貫教育:小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

①義務教育学校



②併設型小・中学校(同一の設置者)



(参考)小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引(平成28年12月26日 文部科学省)



(2) 小中一貫教育の基本形

	義務教育学校	併設型小・中学校
設置者	—	同一の設置者
修業年限	9年(前期課程6年、後期課程3年)	小学校6年、中学校3年
組織・運営	一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織
免許	原則、小学校・中学校の両免許状を保有	所属する学校の免許状を所有
教育課程	・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性、体系性に配慮がなされている教育課程の設定	
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型	

(参考)小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引(平成28年12月26日 文部科学省)



(3) 小中一貫教育の成果と課題

(参考)小中一貫教育の導入状況の調査について(平成29年3月1日 文部科学省)

○成果

①学習指導等

	項目	割合(%)
1	学習規律・生活規律の定着が進んだ	92
2	学習習慣の定着が進んだ	81
3	学習意欲が向上した	80
4	授業が理解できると答える児童生徒が増えた	77
5	勉強が好きと答える児童生徒が増えた	71



②生徒指導等

	項目	割合(%)
1	中学校への進学に不安を感じる児童が減少した	96
2	上級生が下級生の手本になろうという意識が高まった	94
3	下級生に上級生に対する憧れの気持ちが深まった	93
4	いわゆる「中1ギャップ」が緩和された	93
5	児童生徒に思いやりや助け合いの気持ちが深まった	91
6	異校種、異学年、隣接校間の児童生徒交流が深まった	90



③教職員の協働等

	項目	割合(%)
1	小・中学校共通で実践する取組が増えた	98
2	小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった	97
3	小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった	95
4	小・中学校の指導内容の系統性について教職員の理解が深まった	94
5	教員の指導方法の改善意欲が高まった	92
6	小学校教職員の間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まった	91



④その他、学校運営等

	項目	割合(%)
1	地域との協働関係が強化された	80
2	保護者の学校への満足度が高まった	76
3	保護者との協働関係が強化された	74



○課題

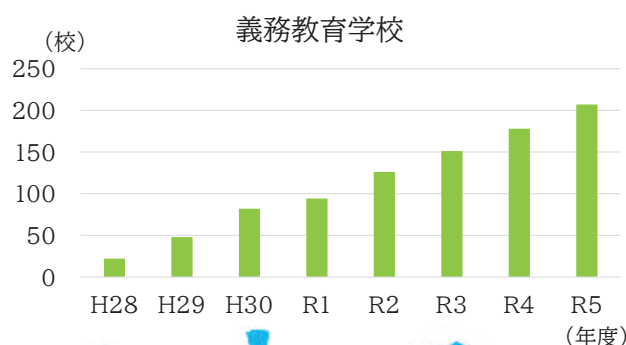
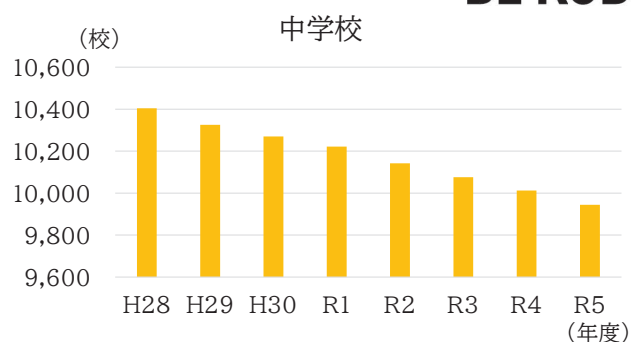
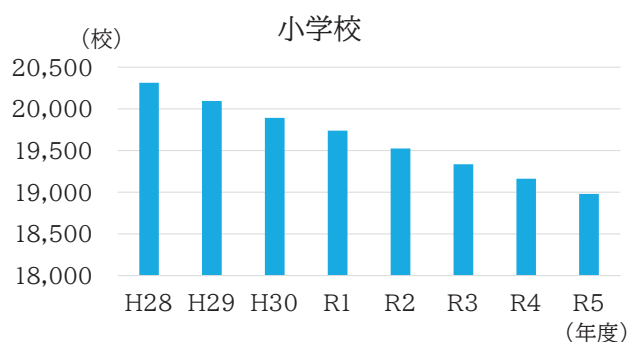
①学習指導、生徒指導等

	項目	割合(%)
1	9年間の系統性に配慮した指導計画の作成・教材の開発	43
2	児童生徒の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保	41
3	年間行事予定の調整・共通化	38
4	小中合同の行事等における発達段階に応じた内容設定	28
5	時間割や日課表の工夫	28
6	児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮	27
7	校舎間等の移動に伴う児童生徒の安全性の確保	25
8	小学校高学年のリーダー性・主体性の育成	22
9	同一中学校区内の小中学校間の取組の差の解消	21



②教職員の負担等

	項目	割合(%)
1	小中の教職員間での打ち合わせ時間の確保	64
2	教職員の負担感・多忙感の解消	64
3	教職員間での負担の不均衡	49
4	成果・課題の可視化と関係者間での共有	43
5	小・中学校の間での負担の不均衡	42
6	必要な予算の確保	41
7	成果や課題の分析・評価手法の確立	41
8	学校間の交流を図る際の教職員の移動手段・移動時間の確保	40



(4) 小中一貫教育が求められる背景

1. 義務教育の目的・目標の創設
2. 教育内容や学習活動の量的・質的充実
3. 発達の早期化等に関わる現象
4. いわゆる「中1ギャップ」
5. 社会性育成機能の強化の必要性
6. 学校現場の課題の多様化・複雑化

参考 ※小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き(平成28年12月26日 文部科学省)
 ※小学校学習指導要領(平成29年告示)解説
 ※中学校学習指導要領(平成29年告示)解説



1. 義務教育の目的・目標の創設

教育基本法第5条第2項:義務教育の目標
 学校教育法第21条:小・中学校共通の目標として義務教育の目標規定



(小中学校)学習指導要領解説

小学校及び中学校の義務教育段階においては、(中略)、学校教育法並びに小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領に示すところに従い、小学校及び中学校9年間を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し、その育成を高等学校教育等のその後の学びに円滑に接続させていくことが求められる。



小学校低学年の教員

中学校での学習や子供たちが中学校を卒業するときの姿をイメージしながら日々の教育活動を行っているか。

中学校の教員

小学校のどの学年で何を学んで、何につまづいて今の子供たちの姿があるのか知った上で指導にあたっているのか。

双方の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組む機運が高まる。



2. 教育内容や学習活動の量的・質的充実

○平成20年学習指導要領改訂

- ・21世紀の知識基盤社会化やグローバル化を見据え「生きる力」(確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和の取れた力)の育成をより重視して行う。
- ・特に「確かな学力」をめぐるっては、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視する。

(例)外国語によるコミュニケーション能力を育成するため、小学校高学年への外国語活動の導入

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の総合的な充実

科学技術の進展等の中で、理数教育の国際的な適用性が一層問われていることを踏まえ、教育内容の系統性を重視し、数学的な思考力・判断力の育成するための指導内容が具体的に示されたり、科学的な思考力・判断力・表現力を育成するための学習活動等の充実が図られる。



小学校と中学校の教員が連携して、例えば、小学校高学年での専門的な指導の充実や、児童生徒のつまずきやすい学習内容についての長期的な視点に立ったきめ細やかな指導などの学習指導の工夫に取り組むことへの重要性が増す。



3. 発達の早期化等に関わる現象

○身体的発達

- ・6-3制が導入された昭和20年代前半と比較すると、例えば平成25年の児童生徒の身長伸びや体重の伸びが最も大きい時期は、当時よりも2年程度早まっている。
- ・女子の平均初潮年齢についても、昭和初期と比べて2年程度早まるとともに、小学校5～6年生での既潮率が大きく高まるなど、思春期の到来時期が早まっている。



①生徒指導面

- ・「自分が周りの人(家族や友達)から認められていると思いますか」という自己肯定感や自尊感情に関わる質問に対し、小学校高学年から急に否定的な回答が多くなる。
- ・不登校や長期欠席についても、実際に休み始めた学年を見ると小学校段階からあるケースが相当数あるなど、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる現象の芽の多くは既に小学校4～6年生から生じている。

②学習指導面

- ・「学校の楽しさ」「教科や活動時間の好き嫌い」について、小学校4年生から5年生に上がると肯定的な回答をする児童の割合が下がる傾向がある。
- ・経験的な理解で対応できる学習内容から論理的・抽象的な理解が必要な学習内容への橋渡しが必ずしも円滑に行われておらず、学習上のつまずきが顕在化し、その後の中学校段階での学習に大きな支障を来している。



4. いわゆる「中1ギャップ」

○小中学校段階の主な差異

小学校		中学校
学級担任制	指導体制	教科担任制
日常生活に根ざした比較的きめ細かい指導	指導方法	比較的抽象度の高い内容を含めた指導
教科間の調整が行われやすい	宿題	教科間での調整がなされないことが多く、部活動その他で時間に追われる
定期試験は実施されない	評価方法	定期試験が実施され、小学校よりもテストに向けた計画的な学習が必要となる
	生徒指導	思春期を迎える生徒を指導することもあり、小学校と比較して規則に基づいたより厳しい生徒指導が行われる傾向
	部活動	中学校から始まり、放課後や休日の活動を行う機会も増える。先輩・後輩の上下関係が人間関係に占める割合が高まる場合がある



- ・小学校と中学校の教育活動の差異や子供たちの人間関係や生活の変化
- ・小学校段階からの学習面でのつまずきの蓄積
- ・小学校段階では顕在化していなかった人間関係の課題
- ・家庭が抱える様々な事情

など



少なからぬ生徒に精神的、身体的負担が生じている



○学習指導・生徒指導上の工夫

- ・生徒が体験する段差の大きさに配慮
- ・小中間の接続をより円滑なものにするために「意図的な移行期間」を設ける教育課程を編成



5. 社会性育成機能の強化の必要性

①大人と子供のコミュニケーションが減少

- ・地域コミュニティの衰退
- ・三世帯同居の減少
- ・共働き世代や一人親家庭の増加

②集団での遊びの機会や、年齢の離れた子供同士の関わりが減少

- ・子供がいない世代の増加
- ・一世帯当たりの子供の数の減少
- ・TVやゲーム、インターネット等に費やす時間の増加
- ・屋外で自由に遊べる場所の減少

③学校の小規模校化

- ・クラス替えができない。
- ・多様な教職員集団からの指導を受けられない。
- ・小学校と中学校がそれぞれ小規模校化して、単独の小学校及び中学校では十分な集団規模が確保できない。



- ・多様な異学年交流の活発化
- ・より多くの多様な教員が児童生徒に関わる体制の確立
- ・中学校区を単位とした地域の活性化による地域教育力の強化



小中一貫教育の取組を進めることで、
学校教育活動の充実を図る



6. 学校現場の課題の多様化・複雑化

○学校が抱える課題(例)

- ①貧困、虐待など複雑な家庭環境で育つ子供の増加
- ②家庭生活や社会環境の変化の影響による家庭の教育力の低下、基本的なしつけを受けないままに学校に入学してくる子供の増加
- ③特別支援教育の対象となる児童生徒の増加
- ④不登校、暴力行為などの生徒指導上の問題の増加
- ⑤日本語指導が必要な児童生徒の増加
- ⑥保護者ニーズの多様化とその対応の困難化
- ⑦時代の要請に伴う教育活動の高度化(キャリア教育、食育、情報教育など教科等横断的な教育活動の必要性)



一人一人の教員の努力や学年単位、学校単位だけの努力だけでは十分な対応が困難



- ・中学校単位での取組の充実
- ・コミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校づくり」
- ・地域と学校が連携・協働して地域全体で子供たちの成長を支える地域学校協働活動の推進



チーム学校としての対応



○竜が台中学校区(2小1中)で神戸市教育委員会が
義務教育学校への移行を案として考える理由

- ・各学年2学級以上となり、クラス替えを行うことができるようになる。
- ・2小の間に竜が台中学校があり、通学に関する負担が少ない。
- ・敷地や教室数などについて、竜が台中学校が一番広く数が多い。
- ・特別教室等の施設整備が新たに必要となったとき、校舎を増築することができるだけの敷地がある。



○本日の予定

1. 第1回保護者説明会の内容
2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計
3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案
4. スケジュール
5. 意見交換
6. 最後に



4. スケジュール

令和6年	10月	第1回保護者説明会(竜が台小、中学校・菅の台小学校:計5回)
令和7年	1・2月	第2回保護者説明会の案内 (竜が台小中学校・菅の台小学校にお子様が在籍する保護者) (竜が台小学校・菅の台小学校にお子様が入学予定の保護者)
	2・3月	第2回保護者説明会(竜が台小、中学校・菅の台小学校:計5回)
	5月	義務教育学校検討委員会設置

※現時点での予定です。決まり次第、随時ご案内します。



○本日の予定

1. 第1回保護者説明会の内容
2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計
3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案
4. スケジュール
5. 意見交換
6. 最後に



5. 意見交換



○本日の予定

1. 第1回保護者説明会の内容
2. 竜が台中学校区周辺校の児童生徒数、学級数の推計
3. 竜が台中学校区で神戸市教育委員会が考える取り組み案
4. スケジュール
5. 意見交換
6. 最後に



6. 最後に…

本日は説明会にお越しいただきありがとうございました。
今後の参考にさせていただきたいので、アンケートのご協力をお願いします。今後とも、よろしくお願いします。

※アンケートURL

<https://forms.office.com/r/qvhwbdTVHf>

※二次元コード

